



# 園だより ～きづき～

キ3園 第47号

2024年度 12月号

キッドワールドサード保育園

園長 是永 妃富

日中は暖かい日もあります。朝晩は日増しに寒さが身にしむようになりいよいよ冬到来です。寒さを実感するこの頃、毎日元気に過ごせるようにと、手洗い、無理のない薄着に心がけ、今月も風邪をひかない健康な体づくりを行っていきたいと思います。今年も残す所1か月となりました。保護者の皆様には今年一年多大なご協力を頂きありがとうございました。御礼申し上げます。新しい年が皆さまにとりまして幸多き年でありますようにお祈り申し上げます。

尚、12/29～1/3までは、年末年始の為、休園になります。よろしくお願い致します。



- 10日(火) 身体計測
- 19日(木) 健康診断
- 24日(火) クリスマス会
- 26日(木) 避難訓練

お弁当日は **12/28(土)**と**年明け1/4(土)**です

お弁当と食具を持たせてください。

おやつと飲み物は園で準備いたします。

運動会!!みんな笑顔です。ご協力ありがとうございました。



- ・12月24日(火) クリスマス会(クリスマス会は子どもたちと職員のみ)で行います。
- ・最終当園日には、布団や帽子を持ち帰りお洗濯をお願い致します。
- ・上着や靴下に名前がなくだれの物かわからない時があります。記名をお願い致します。
- ・1日保育士を受け付けます。保育士に声かけして下さい。日程を調整します。
- ・年末年始に出かけたり、多くの人と過ごしたりする機会が多いかと思ひます。事故や食べ過ぎ等には十分、お気をつけください。
- ・先日お渡ししたアンケートのご協力をお願い致します。12/13までです。回収ボックスは靴箱の上に置いてあります。その中にお入れください。

## インフルエンザ

インフルエンザ呼吸器感染症です。高熱(38度以上)がでるのが特徴です。発症まで潜伏期間が1日～4日くらいです。寒気・のどの痛み・咳・鼻水・頭痛等の症状が出ます。まずは病院へ行きましょう。

## マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマという細菌によって起こる肺炎です。咳や発熱、息苦しさ、喉の痛みの症状がでます。特に咳が長引くようです。大人も感染します。おや?と思ったら病院へ行きましょう。



## イヤイヤ期の子どもの発達とその受け止め（後編）

キッドエッセイ 57 総合園長 牧野桂一



・赤ちゃんは、周りの大人にいろいろ働きかけながら育っています。周りの大人は子どもたちの気持ちを理解し、それに応答的に対応していきます。そういう関わり方の積み重ねで、子どもたちは大人の気持ちを自分の中に取り込むことができます。そのようにすることによって、1歳半ぐらいまでに子どもが外の世界に興味・関心を持つようになっていくのです。そして1歳半から3歳ごろになると子どもの中に自我の世界が育ち、それが徐々に確かなものになっていきます。

・このような時期にあたる2歳児というのは、周りからみていると手に負えないくらいに自己主張が強く周りを困らせ、相手をするのがとても難しくなります。「僕はこうしたい」「私はこうしたい」と言い出したら、それを引っ込めることなく、自分のしたいことにこだわり続けます。経験の深い大人ならば、せっかく作ったご飯を「嫌いだから食べない」というように意固みに子どもが主張したとしても、その子どもをきちんと受け止めることができます。どんなわがままにみえる自己主張も、「あなたは自分のしたいことをこんなに主張できるようになったんだね」と言いながら、どこまでも受容的に受け止めていけるのです。このことは途方もなく難しいことですが、子どもと関わる大人には必要不可欠なことです。そのように受け止める感性が様々な人と共生して生きていけるような生き方を育てていくことになり、人の話を誠実によく聞くことができるようになり、「自分のしたいことには責任を持ち、相手に理解して貰うように丁寧に説明する」ことができるような人間の基盤を育てていくのです。

・「イヤイヤ期」の子どもであっても「僕、人参嫌いなの」なんて言った時に、「ああ、人参嫌いなんだ」というように、子どもよりも少しゆっくりめに、優しい小さな声でしゃべると、子どもたちは受け止められているという実感を持ちます。すると子どもも満足し、ちょっと偉そうにふるまいます。「僕、嫌いなの」なんて威張って見せるのです。そこで大人が「威張っている場合じゃないでしょう、食べなさい」なんて押しつけるような言い方すると駄目になってしまいます。そこは、子どもの言葉を肯定的に受け止めて、「でもね」と優しく切り返していくことが必要なのです。そうすると子どもの中に受け止められて、返してもらった世界が社会的な知性、あるいは社会的な自己として育っていきます。これを心理学的には「第二の自我」というように言っているのですが、これが2歳の頃育ち始めて3歳を過ぎる頃には、イヤイヤ期を卒業していくと言われていきます。

3歳を過ぎた子どもが、自分の内側を向いて自分と対話しながら生きるということはかなり難しい面があります。子どもたちの中に心地よくこの二つの自我世界をつないでいくことは周りの大人の大切な役割でもあるのです。



・今回は先生がイヤイヤ期の接し方を教えてくれています。優しくゆっくり接していくと・・・と述べています。忙しいと「早く！さっさと」等の言葉が出てしまいます。一呼吸おいて対応してみてもいいでしょう。

